

授 業 科 目 名	必修・ 選択別	単位数	対象 学年	学 期	曜・限	担 当 教 員
CPC	必修	1	4	前期		診断病理学・駄阿 勉
【科目名の英文】 Clinical-pathological conference						
【授業の概要】 病死者の解剖例を対象とし、肉眼像および組織像を観察、評価し、病歴と併せ総合的に当該症例の病態を解明し、病理診断報告書を作成することによって、病理解剖の重要性、CPC の臨床的意義を理解することを目的とする。						
【具体的な到達目標】 ① 実際の病死者例について、臨床経過を理解し、臨床的問題点を挙げる。 ② 病理解剖の肉眼所見及び組織所見を評価する。 ③ 各臓器に認められる所見の重要性や関連性を考慮して、主病変と副病変を列挙しまとめる。 ④ 臨床病理相関を行い、直接死因を含めた病態を整理したうえで、剖検報告書を作成する。 ⑤ これらのプロセスを通じて、病理解剖およびCPCの全体像を把握すると共に、その重要性を理解する。						
【授業の内容】						
	授業項目	授業内容	担当講座・教員	方法		
1	CPC 講義	CPC の概要 症例呈示	診断病理学講座 駄阿	講義		
2	CPC 実習	病理解剖例の供覧、診断実習	診断病理学講座 駄阿	実習		
3	CPC 実習	病理解剖例の供覧、診断実習	診断病理学講座 駄阿	実習		
【アクティブラーニングの内容】 8人から9人の小グループで、鏡検、議論しながら診断を進める。各人で診断レポートを作成し、提出する。			【その他の工夫】 履修期間中に病理解剖が実施される場合は、遺族、担当医の承諾を受け、病理解剖の見学を実施する。			
【時間外学修の内容と時間の目安】 バーチャルスライド化した組織切片スライドをパソコンモニター上で観察し、復習する (2h)。						
【教科書】 教科書を指定しない。						
【参考書】 ロビンス基礎病理学原書 10 版 (豊國伸哉他監訳, エルゼビアジャパン, 2018 年), 組織病理アトラス第 6 版 (深山正久他, 文光堂, 2015 年), 病理組織の見方と鑑別診断第 7 版 (吉野正他, 医歯薬出版, 2020 年)						
【成績評価方法及び評価の割合】 レポート提出と試験を課す。点数配分は、レポート 60%、試験 40%とし、60 点以上を合格とする。						
【注意事項】 教材となる病歴、組織切片スライド等は実習室外にもちださない。バーチャルスライドアクセスのためのパスワードは他に教えない。						
【備考】 昨今、画像診断技術の発達がめざましい。肉眼所見、組織所見と当該画像データを対比し、画像診断の知識を深めることも望まれる。						
教員の実務経験の有無	○	医師				
教員以外で指導に関わる 実務経験の有無	×	教員以外で指導に関わる者なし				
実務経験をいかした 教育内容	各臓器の解剖学、病理学ならびに総合的な病態について講義し、実習の指導を行う。					
授業形式	対面					